

霧島市では、多くの企業や市民が参加する錦江湾クリーンアップ作戦、緑のカーテンなどの環境保全活動や、あらゆる分野で女性が活躍できるように、男女共同参画の推進などの取り組みを以前から進めており、今後も幅広い分野でSDGsの考え方を反映しながら、施策を推進していきます。

SDGsの目標を達成するには政府や自治体、民間企業、各種団体だけでなく、私たち一人一人の行動が鍵となります。まずは、日常生活で無理なくできる行動から、少しずつ取り入れてみませんか。

無理なくできることを一人一人が少しずつ

SDGsは平成27年に開催された国連サミットにおいて、加盟国193カ国が全会一致で採択した、より良い未来をつくるための「世界の約束」です。17の目標と169のターゲット（具体的な取り組み目標）がまとめられており、令和12（2030）年までの目標達成を目指します。

エスディー・ジーズ SDGs

それは、より良い未来をつくるための世界の約束



そもそもSDGsって何ですか

海や森など自然環境の汚染や破壊、経済成長による格差の広がり、多発する紛争など世界には解決すべき多くの課題があります。課題をそのままにしていると、未来は今より悪い方向に進んでしまうかもしれません。SDGsは世界が抱えるさまざまな課題を解決して、より良い未来をつくるための「世界の約束」です。



「持続可能な」ってどういうこと

将来にわたって全ての人々が豊かで、幸せであり続けられるという意味です。今のままでは経済格差が大きくなり、環境面でも世界は破綻してしまうといわれています。将来の人たちに負担を残したり、押し付けたりしないで、今を生きる人たちが直面する問題の解決に取り組む必要があります。

「開発」って途上国の話ですか

「貧困」や「飢餓」などは発展途上国の問題と捉えがちですが、日本でも国の生活水準を大きく下回る生活を送っている人がいます。他に差別や健康、環境など先進国にも共通する課題は多くあります。発展途上国も先進国も「誰一人取り残さない」、より良い社会をつくらうというものです。

どんな「目標」があるの

「貧困をなくそう」「人や国の不平等をなくそう」「海の豊かさを守ろう」など17の目標があります。1から6までは健康と福祉、教育など社会的な目標、7から12まではエネルギーや産業など経済的な目標、13から15までは環境・自然に関する目標、16と17は全てに共通して関わりのある目標というように、まとまりで捉えると理解しやすいです。

SDGsは持続可能な17の開発目標です。



何をすればいいの

SDGsには義務やルールがありません。何をするか、どのようにするかはその人の自由です。目標の規模が大きいのが多いので、自分のことに感じられないかもしれませんが、私たちも地球に住む一員です。SDGsの特徴でもある17番目の目標「パートナーシップで目標達成しよう」には、誰か一人が頑張るのではなく、みんなで協力して取り組もうという思いが込められています。それぞれの目標は関連し合っているため、一人一人が取り組むことで、個々の力では変えられない大きな課題の解決につながります。

いつから始まったの

1980年代に国連を中心に「持続的な開発」が議論されてきました。平成13年からは貧困を解決する、教育の機会を与えるなど主に発展途上国が抱える八つの課題について、先進国が協力して解決していこうというMDGs（ミレニアム開発目標）に取り組んできました。平成27年に発展途上国だけでなく先進国でも格差や健康、不平等などさまざまな課題があることが明らかになり、SDGsに統合し同じ目標を目指すことになりました。



実は既に始めている。身近なSDGs

移動は自転車や公共交通機関で

地球温暖化につながる二酸化炭素の排出を削減し、運動することで健康増進にもなります。



地元で買い物

地域経済の活性化のほか、生産者や食材を知ることで、食べ残しの削減や食育にもつながります。



マイボトルを使う

プラスチックごみを減らすことで、海洋汚染対策になります。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



牧園中学校

SDGsは国や大きな企業が取り組むことという先入観がありました。でも世界の目標だからこそ、一人一人が意識しないと目標達成にはつながらないと感じました。生徒会活動と総合的な学習の時間で共同の取り組みを始めて、牧園中SDGsを一人でも多くの生徒に広げていきたいです。

生徒会長
2年
いよ 彌永 琉希 君



SDGsの学びを通して、社会・経済・環境のバランスが崩れてしまうと、幸せや豊かさを実感できない人が増えてしまうと感じました。さまざまな意見や立場の人がいる社会では、一人一人が選択する行動も違ってきます。目指す社会に向けて課題を共有し、協力し合うことが不可欠だと思います。

副会長
2年
てん 中園 天麗紗 さん



牧園中学校 校長
米森 孝代さん(59)

学校では環境・人権・国際理解など、さまざまな分野を学んでいます。SDGsの理念を知ることによってそれらを横断的に学ぶことができ、社会の課題には関連があるということに気付いていきます。2030年には社会の担い手となっている中学生。予測が難しい社会変化の中で、課題に気付き力と新しい価値を創造する力が必要で、生徒たちにとってキャリア教育の一環として、SDGsは大変な学びであると思います。

より良い未来をつくるため、みんなで協力しましょう。

カードゲームでSDGsを体験

SDGsを知って
みんなで取り組もう



SDGsカードゲーム

小中学校でも授業に取り入れられるなど、SDGsへの取り組みは広がっています。

国分小学校



私たちが頑張ること



子どもたちが生きる社会がどうあってほしいかを考えたとき、答えはまさにSDGsが目標としている社会でした。教育は未来をつついでいく大きな力を持っています。子どもたちに、自分たちが将来生きていく社会の課題について考えてもらうと同時に、教職員もどういった教育活動を行っていくかを考える。SDGsについての学びを通して、未来を創造するという教育の大きな目標を大事にしたいです。



国分小学校 校長
鶴田 幸伸さん(58)

日本政府が示したSDGs実施指針に基づいて、令和2年から始まった新学習指導要領には「持続可能な」という言葉が盛り込まれました。

市内では国分小学校が、今年度の学校運営方針にSDGsの取り組みを盛り込んでいます。牧園中学校でも昨年10月から「SDGsの扉」と題して、全学年で学んでいます。両校はまず、目標達成までの過程を体験できるSDGsカードゲームを、専門の講師を招いて行いました。

自分たちの動きで世界が変わる

SDGsカードゲームは会場を一つの「世界」と仮定し、各プレイヤーがカードによって示された「人生のゴール」の達成を目指して活動するゲームです。開始時に配られた「お金」や「時間」、やりがいや情熱などの「意思」のカードを元手に、さまざまなプロジェクトを実施。プロジェクトの効果としてお金や時間、新しいプロジェクトと意思を手に入れることができます。

会場には世界の状況を表すマグネットが準備されています。黄が社会、青が経済、緑が環境で、プロジェクトを行うたびに世界の状況が変化します。例えば道路の整備を行うと、利便性が向上するなど経済が増え、一方で森林伐採などのため環境が減る。社会・経済・環境のどれか一つでも悪くなれば、幸せや豊かさを実感できない人が増えるので、全体のバランスが崩れないような方法を考えなければなりません。

ゲームが進むにつれ、手持ちのカードだけではプロジェクトがでなくなったり、世界のバランスが崩れたりします。カードは他の人やグループと交換して他のプロジェクトを支援することができます。牧園中学校では、その説明を受ける前に、生徒たちが自然と周りのグループに交換を持ち掛けていました。さらに生徒たちは世界のバランスを取るため、グループの枠を越え一斉に動くように、自分の行動が世界を変化させること、より良い世界をつくるには周りの人との協力が大切であることを、身をもって体験しました。

大きな目標を達成するためには、国や企業などだけでなく、一人一人の行動と周りの人たちの協力がとても重要です。

一つの目標への取り組みの多くは、他の目標達成にもつながります。国連のガイドには、私たちが日常生活で簡単に取り入れられる行動が紹介されています。まずはSDGsがどういったものかを知ることから始めましょう。

国連のガイドはこちらから↓